

əfek'tər

実践的で効果的マクソン・エフェクター
その使い方と限りない魅力

Maxon[®]
HIGH QUALITY DEVICES



●—————イントロダクション

ナチュラルなトーンにいろいろな変化をつけ、トーンのバリエーションを拡げるエフェクター。電気電子楽器ならではの世界です。

組み合わせやセッティングを替えたり、コントロールをほんの少し変えるだけで全く別のトーンになってしまう魔法の箱です。当然そこには楽器を演奏することと
以た、いかにうまく、正確に、気持ちよく聞こえるかというテクニックが必要となります。また自分の求めるイメージやサウンドを得るための知識や音楽性も必要でしょう。

このリーフレットではマクソンで十分に再現できるプロ・ミュージシャンたちのセッティングとサウンドが紹介されています。また、エフェクターの知識も載せました。

エフェクターを魔法の箱にするためにも、ぜひご一読のうえ、あなたのプレイにお役立てください。

目 次

イントロダクション	2
マクソンのプロフィール	4
スイッチ・ボックス S B300	5
グラフィック・イコライザー GE601	6
ワイヤレス・システム TR-2	7
レスポール・SG派のエフェクター	8
ストラトキャスター派のエフェクター	12
テレキャスター派のエフェクター	16
セミ・アコースティック派のエフェクター	18
ベース・ギターとエフェクター	22
キーボードとエフェクター	24
エフェクターの接続方法	26
マクソンのニューモデル	29
マクソンのサウンド・アクセサリ	31

●——マクソンのプロフィール

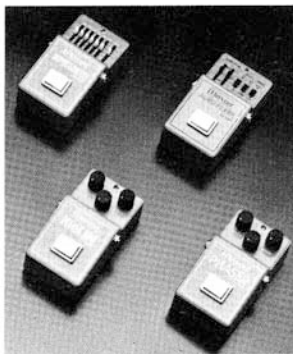
マクソンはコンパクト・ボディ・エフェクターの先駆者です。

テクノロジーと人間工学がジョイントした機能的なボディ。確実作動の“Q-1スイッチ”を採用し、足元手元での一発切り替えができる優れた操作性。両頭プラグ使用を考慮した同型異色のボディ設計など、同種のどの製品よりも小さい体積にまとめられているエフェクター、それがマクソンです。

シンプルゆえに飽きがこない

奥行の深いトーン・キャラクター。

マクソンのトーンはシンプルでオーソドックス。どんな楽器にも使えるフレキシビリティとプレイヤーのセンスをキラリと光らせる創造性は楽器やジャンルを選びません。エフェクター・ラックへの発展性を持つFETスイッチをはじめ、数々の最新テクノロジーを搭載した小技の結晶体。それがマクソンです。宏大な音づくりのヒントが凝集されたマクソンのエフェクター。あなたの愛器にジョイントしてください。

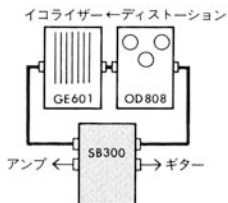


●——スイッチ・ボックス SB-300

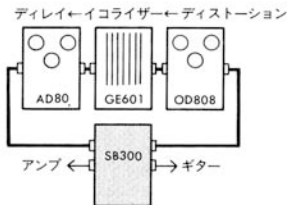
フェイザーとディストーションを同時に使用したい時、2つのギターを持ち替えて弾く時、そしてひとつの楽器をソロとバックというように使い分けたい時。このような瞬間的な切り替えをスイッチ・ノイズのないFETスイッチで行うスイッチ・ボックスがSB300です。

SB300なしに多種のエフェクターを接続したり、それらをパートごとに切り替えて演奏するといった今日的な離れ技は考えられません。エフェクター以前のエフェクター、それがSB300です。

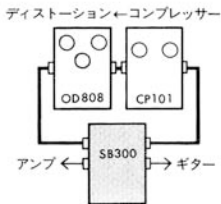
接続方法はいろいろありますが、代表的なスタイルをご紹介します。また、組み合せる前に1つ1つのエフェクターをよく研究し、特徴や構造を理解したうえで行うと効果も十分に引き出せます。



[バラエティに富んだディストーションをつくる]



[SB300なしでは考えられぬトリプル・エフェクト]

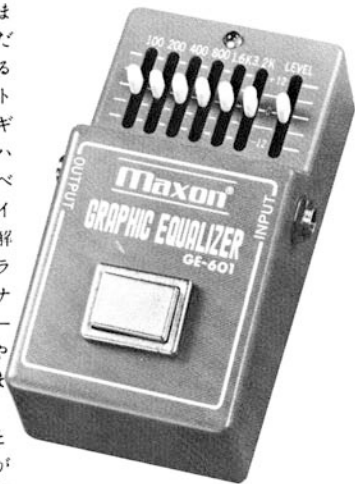


[ポップ&ハードなディストーション]

●——グラフィック・イコライザー GE601

グラフィック・イコライザーには大きく分けて3つの使い方があります。第1はエフェクターをつないだり、長いシールドを使った時に起る音質変化を補正して、クリアなトーンを維持する負荷補償。第2はギターとアンプのマッチングが悪くハウリングを起すような場合に、レベルはそのままでハウリングするポイントだけをイコライザーで下げて解消する特性補償。PAなどのイコライザーがこれです。第3はオリジナルなサウンドをつくる使い方。ベースやエレピに使えば厚みのある音や繊細な音などが自由自在に操れます。

GE601はセレクト・スイッチとマスター・レベル・コントロールが付いているのでソロとバックの切り替えができ、しかも+24dBまでブーストできるのです。イコライザー付プリアンプとしても使えるGE601のオペレーションは、君の腕次第というわけです。

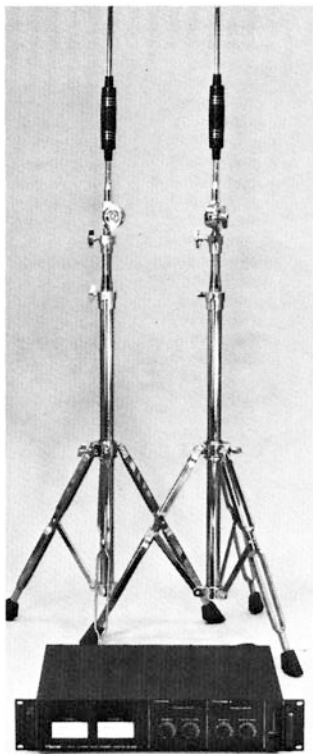


●——ワイヤレスシステム TR-2

なんと、あの長々としたシールドが消えてしまった。ステージから飛び出し、全身でインプロヴィゼーションできるワイヤレス・システム。それがTR2です。

来日アーティスト達が見せてくれた熱狂のライブ・アクトを演出するだけでなく、スティーヴ・ルカサーのように、隣のレコーディング・スタジオにフルアップしたマーシャルをセットし、それをワイヤレスでコントロールするやり方もあります。音がかぶるという問題を解消し、パワフル・サウンドを無影響に近い状態にしてレコーディングするわけです。

アンテナから半径30メートル以内なら楽々OKのTR2。ギターだけでなく、ベースやキーボードなど移動できる電気楽器なら全て取り付けられます。写真はアンテナ、ダイバスティー・システムを採用した完全プロモデルTR2020です。



● レスポール・SG派のエフェクター

◎ ステイブ・ルカサー

Middle Man 〈*Middle Man*/ボズ・スキヤッグス〉



TOTOのギタリスト、ステイブ・ルカサーの胸のすくようなオーバードライブ・サウンドは、フルアップしたマーシャルとダブル・ハーモナイザー等のスタジオ・エフェクトから生まれています。それに迫るセッティングは、CP101+OD808でオーバードライブさせCS505+AD80でスタジオ・エフェクト風に味つけて、最後にGE601で音の透明感を強調。コーラスからの出力をステレオにすると増々感じが出てきます。

◎ 高中正義

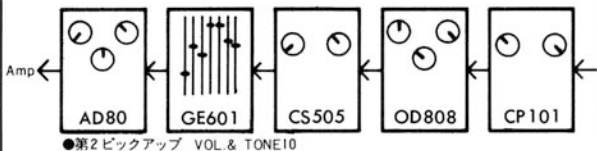
Blue Lagoon 〈*Jolly Jive*/TAKANAKA〉



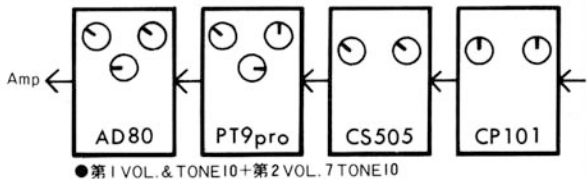
高中正義のクールでメロウなトーンは、ソリッド・ギターを使いながらもリー・リトナーのサウンド・セッティングを意識したもので、コンプレッサーCP101とコーラスCS505の使い方がポイントになります。バックギンにまわった時はレゾナンスを深くかけたフェイザーを使うと良いでしょう。エコーはあくまでも浅く浅くさりげなくきかせること。

プロ・プレイヤーのレコードにおけるサウンドを詳しく解剖し、マクソンのエフェクターを使って再現してみよう。君たちの使っている楽器とは違うかもしれないが、かなり近いセンまで迫れるはず。

スティーブ・ルカサー



高中正義



● レスポール・SG派のエフェクター

◎ カルロス・サンタナ

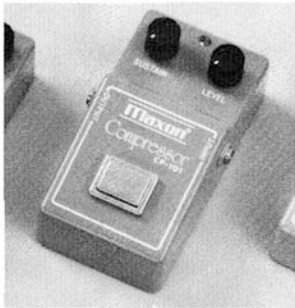
トワイライト・ハイウェイ 〈Middle Man/ボズ・スキヤッグス〉



サンタナ・サウンドはトレブリーなフィードバック・サステインに特徴があります。したがってナチュラルな減衰が決め手になり、コンプレッサーを使わないディストーション・ユニット特有のサステインを出すようにします。この曲では出てきませんが、バックにまわった時の浅いフェイズやレスリー・スピーカーをからませたサウンドも彼ならではのものです。

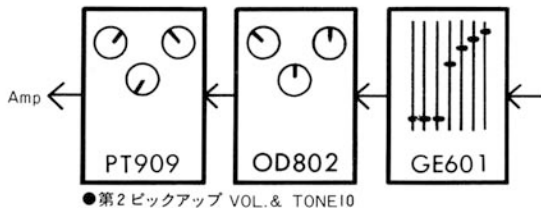
◎ トム・シュルツ

Don't Look Back 〈Don't Look Back/BOSTON〉

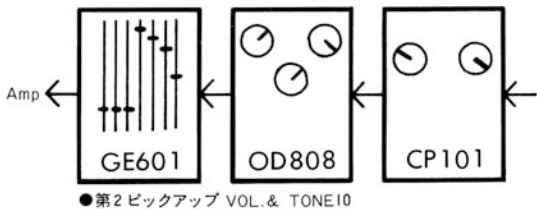


エフェクターの使い方を心得ているミュージシャン、トム・シュルツ。トム・シュルツのポップ&ハードなディストーション・サウンドは計算された美しさにあふれています。この曲もオーバードライブ・サウンドなのでコンプレッサー+ディストーションが基本になります。しかしヘヴィになり過ぎぬ〈軽さ〉も必要で、ここではイコライザーが大活躍しています。

カルロス・サンタナ



トム・シュルツ



●——ストラトキャスター派のエフェクター

◎——エドワード・ヴァン・ヘイレン

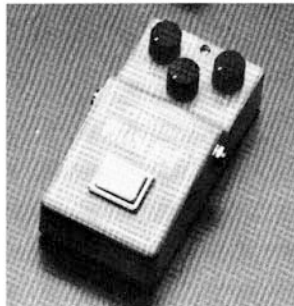
ランニン・ウィズ・ザ・デヴィル 〈ヴァン・ヘイレン *First*〉



ハムバッカーを装備した改造ストラト+マーシャル・アンプでオーバードライブしきったサウンドを出すE.V.ヘイレン。ここではコンプレッサー+ディストーションにイコライザーでブーストさせ再現しました。このセッティングはハード・ロックの基本型ともいえるダイナミック・トーンの模範例です。メローなパートにはフェイザーとディレイを使うことを忘れずに。

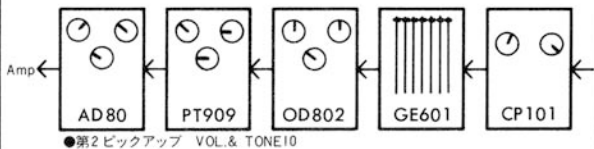
◎——鈴木 茂

スノー・エクスプレス 〈バンド・ワゴン/鈴木茂〉

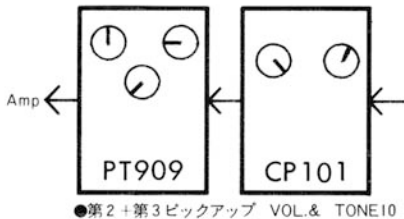


シティ・サウンド派、鈴木茂。ストラトのハーフ・トーンにコンプレッサーとフェイザーを接続しインテリジェントなトーンを出します。このトーンは西海岸から来たもので、西海岸派シンガー・ソングライターのLPのバックでしばしば聴かれます。このサウンドをそのままアンプでオーバードライブさせると、故ローウェル・ジョージのサウンドになります。

ヴァン・ヘイレン



鈴木 茂



●——ストラトキャスター派のエフェクター

◎——リッチー・ブラックモア

ハイウェイ・スター〈マシン・ヘッド/ディープ・パープル〉



彼のサウンドは典型的ともいえるヘヴィ・メタル・サウンドです。そのディストーションを再現するにはファズっぽいメタリックなオーバードライブ、しかもコンプレッサーを並用しないサステインと減衰感が要になります。ディストーションのブースター的使用方を心がけてください。また、彼は改造したエコー・ユニットを使いシングル・ディレイ・サウンドを多用することでも有名です。

◎——ハイラム・ブロック

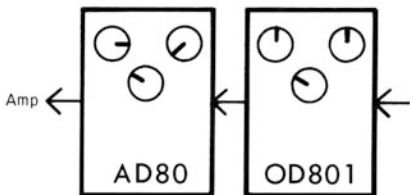
Full Time Love〈24丁目バンド〉



ジミ・ヘンドリックス以来の黒人ロッカー、ハイラム・ブロック。彼のサウンドはストラトにマウントしたハムバッカーと図のようなエフェクター・セッティングから生まれます。とくにオート・ワウ (AF201) はベースでやるチョッパーのような味を出すのに使っています。

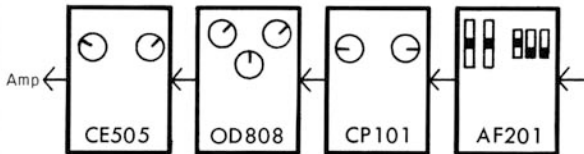
あくまでもストレートでファンキーなサウンドを表現する、これが彼をコピーする秘訣ですね。

リッチー・ブラックモア



● 3ピックアップ VOL.& TONE10

ハイラム・ブロック



● カッティング=第1ピックアップVOL.& TONE10

● ソロ=第3ピックアップVOL.& TONE10

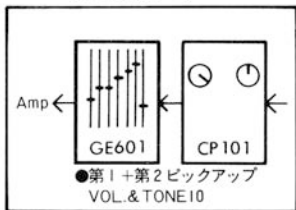
●———テレキャスター派のエフェクター

◎———ジム・メッシーナ

Mama Don't Dance

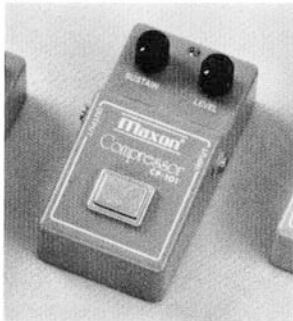
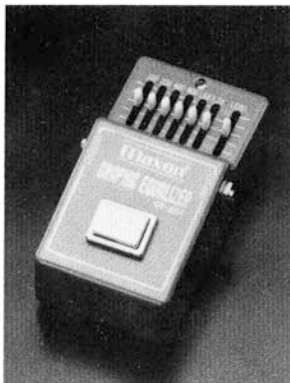
パッティング奏法やチックン奏法などカントリー奏法をテレキャスターからくり出すジム・メッシーナ。このセッティングはスティーブ・クロッパーやエイモス・ギャレットらのレイド・バックしたテレキャスター・プレイヤーにも共通するセッティングです。コンプレッサーはセンシティビティを深くし、立ちあがりのアタックを強調するといっそう雰囲気が出てきます。

ジム・メッシーナ



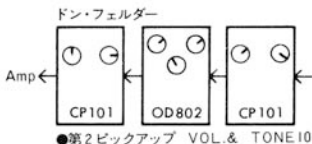
◎———ドン・フェルダール

ホテル・カルフォルニア〈イーグルス〉



ホテル・カルフォルニアのドン・フェルダールのディストーション・ソロがテレキャスターだとわかった人は少ないでしょう。ハード&メロー

なこのソロはダブル・コンプレッサーならではのものです。テレキャスターとは思えないロング・サステインと太いトーンが得られます。もちろんハンド・ヴィブラートでよりサステインを持ちあげる左手のテクニックがあってこそ、成せる技です。



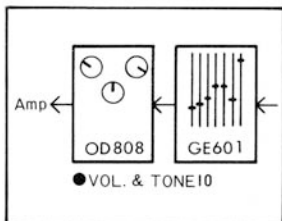
をくり出せるのです。エレクトリック・ギターって本当にスゴいですねえ。



ロイ・ブキャナン

◎——ロイ・ブキャナン
メシアが再び〈メシアが再びより〉

ロイ・ブキャナンのサウンドはひと言いでいって「テレキャスターの可能性の全てを試している」サウンドです。チューブ・アンプをオーバードライブさせるだけの彼のトーンを再現するには、ディストーションとイコライザーを使い、どちらもブースター的に使用してアンプの初段でディストーションさせる感じにします。それにしてもシンプルなテレキャスターがあそこまで多彩なトーン



●———セミ・アコースティック派のエフェクター

◎———リー・リトナー

キャプテン・カリブ〈ジェントル・ソウツ〉

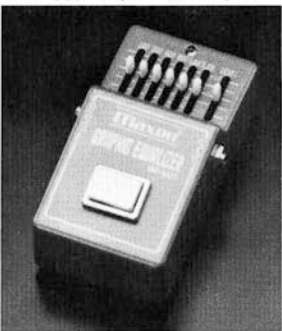


リー・リトナーはスタジオ・ミュージシャンを代表するエフェクター

・マンです。巧みなテクニックでフレーズ中にエフェクター・サウンドを入れ、表現をいっそう魅力的にしています。彼の核になるエフェクターは、コンプレッサー、コーラスと極端に深いフェイザーで、コンプレッサーはほとんどONにしっぱなしという感じですし、コーラスもバックキング&ソロの両方に始終顔を出しています。単弦をミュートし、フェイザーをかけたパーカッシブな奏法は彼のトレード・マークです。

◎———ラリー・カールトン

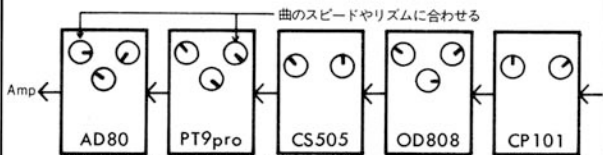
ルーム335〈ラリー・カールトン〉



Mr.335、カールトンのサウンドはチューブ・アンプをオーバードライブさせたサウンドです。このトーンはコンプレッサーとディストーションでオーバードライブさせ、イコライザーでクセをつけると再現できます。ところで、イコライザーのセットを変えるとジュエ・グレイドンのトーンになります。ぜひ一度試してください。

ES 335に代表されるセミ・アコースティック・ギターはスタジオ・ミュージシャンの多くが使用していることでもわかるように、エフェクターとの相性が良く、効果を出しやすいギターです。

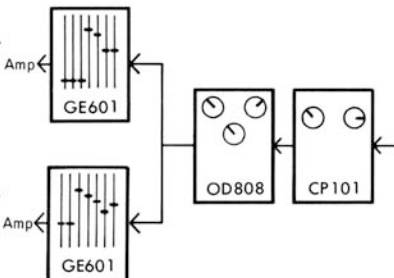
リー・リトナー



- ソロの場合第1ピックアップ VOL.& TONEは10
- バックングの場合第1+第2ピックアップ VOL.& TONE10

最近のリトナーは図のような組合せをラックマウントしたエフェクター、マクソンUE400を好んで使用しています。

ラリー・カールトン



- ラリー・カールトン第1ピックアップ VOL.& TONE10
- ジェイ・グレイトン第2ピックアップ VOL.& TONE10

●———セミ・アコースティック派のエフェクター

◎———エリック・ゲイル

ジンセン・ウーマン〈夢枕/エリック・ゲイル〉

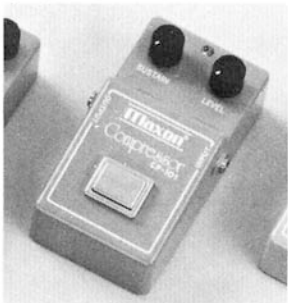


スタッフのエリック・ゲイルです。本来エフェクターを使わずにスーパー400のナチュラル・トーンでソウルフルなプレイを演るのですが、図のようなセッティングにして彼のフィーリングを表現してみました。エフェクターを前面に出さず、フェイザーも控えめにしてください。

◎———松原正樹

①流宇夢サンドのLP

②14番目の月〈14番目の月/ユーミン〉

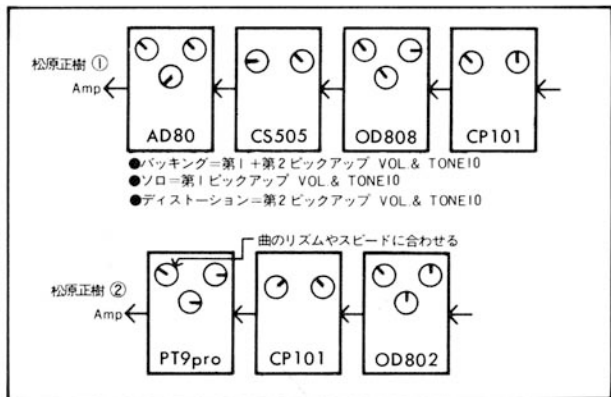
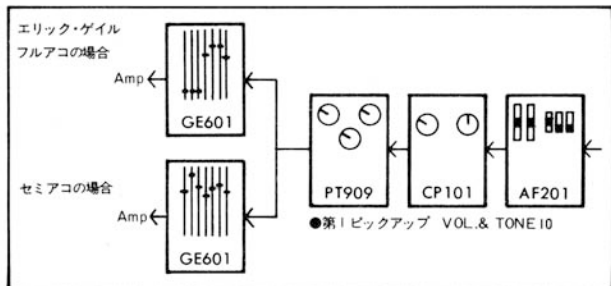


歌心を持ったエフェクター、彼はどエフェクターワークをフルに活し

てるプレイヤーはいないでしょう。

① は彼のソロ・プレイでのセッティングです。2枚のソロ・アルバムとパラシュートでのアルバムで彼のギターの歌わせ方、エフェクターの持つ魅力を学ぶことができます。

② はセッション・プレイでのセッティングで「聴きやすく、耳に残る間奏」をするため、ソロ・プレイとはニュアンスの異なるトーンをつくっています。リトナー風なのですが、日本人らしさを感じさせるサウンドです。



● ベース・ギターとエフェクター

◎——PT909 フェイザー
 ウィル・リー 〈I'm Sorry・マイク
 ・マエニエリ/ラブ・プレイ〉

曲全体を包みこむメロウなサウンド。この曲で彼はプレジジョン・ベースにフェイザーをかけてプレイしています。ベース+フェイザー・サウンドの特徴はメロウの一語につきまします。かなり派手なプレイをしているのですが、フェイザーがトーンの幅を拡げうまくアンサンブルに溶けこんでいます。スローバラードを引き立たせるテクニックのひとつです。

◎——CS505 コーラス
 アルファンソ・ジョンソン 〈ママ
 ・ママ/CBSオールスターズ〉

この曲で彼はフレットレス・ジャズ・ベースのブリッジ側ピックアップにコーラスをかけてソロをとっています。超インプロヴァイズされたベース・ソロにコーラスの持つ繊細なトーンが加わり、彼の息づかいまでが感じられるかのようです。

◎——FL302 フランジヤー
 アンソニー・ジャクソン 〈キャプテン・フィンガース/リー・リトナー〉

ギターでは守備範囲の似ているフェイザーとフランジヤーもベースでは全くキャラクターが変わります。メロウなフェイザーに対し攻撃的なフランジヤーを使ったアンソニー・ジャクソンのリフは、この曲をはじめアル・ディ・メオラのLPでも聴くことができます。スピーディでスリル満点のトーンはドライブ感のあるベース・ソロに理想的な音色です。

◎——AF201

オートフィルター
 ウィル・リー 〈ワン・ナイト・アフ
 ェアー/エスター・フィリップス〉

オートワウの「タッチの強弱でかかり方が異なる」点をうまく利用したオートワウ・ベース。一音一音に微妙なトーンの違いをつけ、そのニュアンスで曲全体のムードを盛りあげています。ここまで使いこなせばエフェクターも大満足でしょうね。

マクソンのエフェクターはベース・ギターにも効果絶大なのです。いろいろなエフェクターを活かした大先輩たちのプレイを参考に、君も新しいサウンドを創り出してください。

◎——OD802

ディストーション

ニール・ジェyson <イースト・リバー/ヘヴィメタルビバップのLPより・ブレッカー・ブラザーズ>

ベースにディストーションをかけたトーンの凄味も格別です。とくにディストーションをかけたチョッパーほど下半身を攻めるトーンはありません。この曲ではLPタイトル通りソリッド&メタリックなハードさとファンキーなのりの両面攻撃を見せています。チョッパーの元祖ラリー・グレアムもノックアウトされそうなど迫力ベースです。

◎——CP101

コンプレッサー

アンソニー・ジャクソン <スーパースター/スピノザ・ニューヨーク>

ベース+コンプレッサーの魅力は大地をもゆるがす重低音です。コンプレッサーによるロング・サステインはサウンドのボトム・ラインを支え音の薄い小編成でのスロー・ナンバーに実力を発揮します。

◎——AD80

アナログ・ディレイ

ジャコ・パストリアス <コンティニウム/Firstソロアルバム>

ジャコ・パストリアスといえばフレットレス・ベースとディレイ。感性のおもむくままフレットの限界を越えて飛びまわるフレーズはディレイならではのものです。ベース・プレイヤーなら一度は挑んでみたい世界ではないでしょうか。

●————— キーボードとエフェクター

◎————— エレクトリック・ピアノ

エレピと相性が一番よいエフェクターはフェイザーです。ソフト&メロなトーンを強調し、空間的な拡がりも出てきます。

フランジャーFL302やコーラスCS505はフェイザーよりも繊細な拡がりがあって、フランジャーの方はソリッド、コーラスの方はよりメロなトーンになります。

ディレイAD80を使う場合は、ディレイ・タイムを長くして早いアルペジオを弾くとスペーシな奥行が出てきます。

リチャード・ティーのようなサウンドにしたいならコンプレッサーがよいでしょう。強烈なタッチとメリハリのついたサステインは魅力的です。

◎————— エレクトリック・オルガン

オルガンもバンド・アンサンブルの中になくなくてはならないキーボードのひとつです。エンベロープの変化が全くない楽器なので、使えるエフェクターの種類は限られます。一番効果的なのはフェイザーです。もともとフェイザーはオルガンに使うレスリー・スピーカーのドップラー効果をコンパクトに電子的にしたものですから、手軽に「その音」を再現できます。また、ハード・ロック派にはOD801を使ったファズっぽいトーンも有効です。1度5度のみをドローン効果にしたコード・パターンを使い、8分音符をきざめばもうディープ・パープル時代のジョン・ロードの世界です。



◎——クラヴィネット

クラヴィネットもポピュラーなキーボードです。とくにリズム的なナンバーでのパーカッシブ・サウンドはクラヴィネットの独壇場です。クラヴィネットに欠せないエフェクターはフェイザーで、それもPT9 Proのようなレゾナンスの深いものがピッタリです。スティービー・ワンダーが「迷信」で取り入れたのが始まりですが、今やクラヴィネット+フェイザーのコンビネーションは常識となっています。

パーカッシブな魅力を増すためのオーバードライブ OD808やオート・フィルター AF201も面白いでしょう。



◎——シンセサイザー

「シンセサイザーはどんな音でも創り出せるのでエフェクターなどいらないだろ」と思うでしょう。ところがシンセサイザーと抜群のコンビネーションを組むエフェクターがあるのです。

ディレイもそのひとつです。モノフォニック・タイプでも、ポリフォニック・タイプでも欠くことができません。ライブ派はもちろん多重録音派にもなくてはならない必需品です。また、ライブでトーキング・ボックスを接続するのはどうでしょう。〈ティンパン・アレイ 2〉のLPで松任谷正隆がやっていますが、デジタル・フィーリングのシンセ・サウンドに人間味あふれるトーキング・モジュレーター・サウンドがドッキングした「ヒューマン・シンセ」サウンドです。

エフェクターの接続方法

◎——ワイヤレス・システム

ワイヤレス・システムはいかなる場合でも他のエフェクターより優先させ、一番楽器寄りにつなぎます。ただし、あまりにハイパワーなギター等の場合は間にリミッターとしてコンプレッサーをはさむのはこの限りではありません。

◎——オート・フィルター

AF201とコンプレッサー、ディストーション

よほど腕に自信のある人ならともかく、一定の強さでピッキングすることは至難の技です。動作を確実にするにはオート・ワウの前にSUSTAINを低くしたコンプレッサーCP101を入れると良いでしょう。

この場合のかかり具合はコンプレッサーのLEVELでコントロールします。

ディストーションをセットする場合オート・ワウの前と後とでは全くニュアンスが変わります。楽器→Dist→AF201→Ampなら猛獣の叫びを思わせる炸裂したトーンになり、楽器→AF201→Dist→Ampならワウ効果は半減し、基本サウンドがディストーションのトーンで微妙にトーンが変化するだけになります。



エフェクターをつなぐ順序を替えるだけで異ったトーン・キャラクターを生みだします。よく読んで参考にしてください。

◎———ディレイ

ディレイは何かあろうと一番最後。アンプの直前にセットします。それはディレイ以前のエフェクターが音色を決定し、そのトーンをディレイがダブらせるからです。最初にディレイではグシャグシャになってしまいます。

◎———コンプレッサーと

ディストーション

楽器→Comp→Dist→Ampならチューブ・アンプをオーバードライブさせたようなロック色の強い音色になります。

楽器→Dist→Comp→Ampならディストーションしながらも丸味をおびた太い音色となり、ポップな歌もの間奏でディストーションさせたい時などにマッチしたソフト・ディストーションになります。

● エフェクターの接続方法

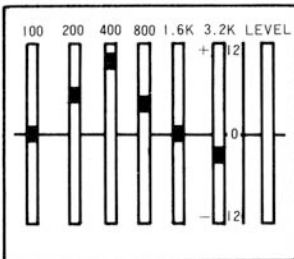
◎ フェイザー、コーラス、フランジヤ

フェイザー、コーラス、フランジヤをつなぐ場合、コンプレッサーやディストーション、オート・ワウよりアンプ寄りに優先してセットします。逆にセットするとこれらのエフェクターの特徴である空間的広がりがなくなります。順序は楽器→コーラス→フランジヤ→フェイザ→アンプとするのがよいでしょう。

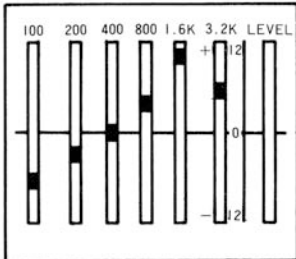
◎ イコライザー

全体の高域補償として用いるためにはディレイの直前、普通のエフェクター群の一番最後にセットします。

2つのエフェクターのコンビネーションを用いる場合は、両エフェクターの間にイコライザーをセットします。例えば楽器→Comp→GE→Dist→Ampとか楽器→Dist→GE→Flanger→Ampといった組み合わせ方です。



シングルコイル・ギターでハムバック・ギターのようなサウンドにする場合のセッティング

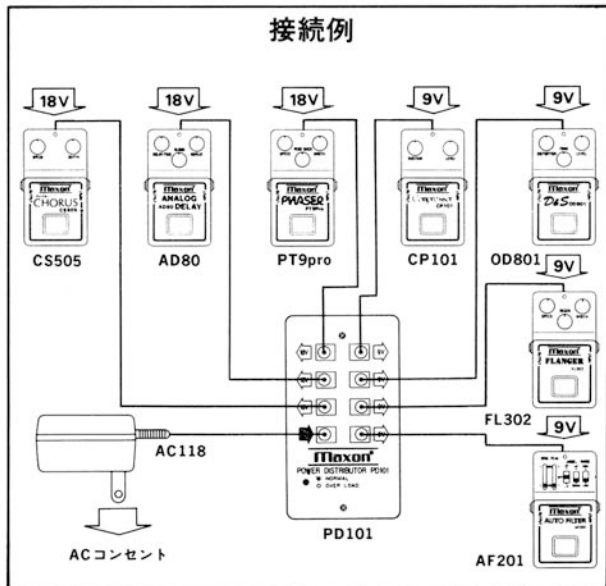


ハムバック・ギターでシングルコイル・ギターのようなサウンドにする場合のセッティング

●————マクソンのニューモデル

◎————パワー・ディストリビューターPD101

PD101はマクソン・エフェクター専用の外部電源分配器です。ACアダプター「AD11」(18ボルト) 1個から、同時に9ボルト動作のエフェクター4個、18ボルト動作のエフェクター3個にDC電源を供給できます。



●————マクソンのニューモデル

◎————パラメトリック・イコライザーPQ401

ギター・シンセサイザーのVCFと似た効果が楽しめるイコライザーです。普通のイコライザーは音質変化や低下を防ぎ、ハウリング対策として使用する機会が多いのに対し、パラメトリック・イコライザーはイコライザーの魅力にトーン・コントロールの魅力を加えたもので、音のくせを強調、とくにPQ401は中音域のポイントを自由にセレクトできる設計になっています。海外で絶賛されているエフェクターです。



◎————オートフィルターAF201

オートフィルターはペダルワウのヴォリューム部分を電子回路に置き換え、入力信号（ギターの音量）を電圧に変換して制御するVCF（電圧制御フィルター）を使用して楽器の音量の強弱を自動的にワウ効果にするエフェクターです。しかもAF201はシンセサイザーと同じハイパス・フィルターとローパス・フィルターを装備しているので、単なるワウではなく、シンセサイザーに近い効果が出せます。



●————マクソンのサウンド・アクセサリ

◎————AC109(DC9V)

AC118(DC18V)

スタビライザー回路(安定回路)を内蔵したマクソン・エフェクター専用のACアダプターです。

AC109=入力AC100V50/60/Hz

6/5VA 出力DC9V200mA

AC118=入力AC100V50/60Hz

6/5VA 出力DC18V100mA

◎————ビッグ・パワー・バッテリー

ロングライフの9ボルトバッテリー・エフェクター用バッテリーとして抜群のパワーを持つ理想的な電池です。S006P JIS・C8501

◎————トーキング・ボックスTM505

マウス・ワウの別名どおり、ギターのを口の中で鳴らし、それをマイクロフォンで收音するシステムです。口の開け方で音が変わるので立体的なワウ効果が出せます。ジェフ・ベック、ジョー・ウォルシュ、ピーター・フランプトンが使っていますが、変わったところではステイビー・ワンダーもシンセサイザーを使い口でVCFの移動効果を出しています。

